



タイトル： シンプルに豊かに暮らす

秩父別町の広い土地には、さまざまな一軒家が並んでいます。そこはきれいな大自然に囲まれて、秩父別町に暮らしている人々はゆったりと生活しているように感じます。農家を営む高崎夫妻もその中の二人です。



●高崎さんご夫妻、シンプルで幸せな生活

高崎さんの家族は 110 年もの間、秩父別町にずっと住んでいます。今の高崎さんは秩父別町で生まれ育った 3 代目です。その町からどうしても離れたくないのはなぜなのでしょう。

それは、先祖が守り継いできたその場所を大事にしていきたいからなのです。高崎さんご夫妻にとって、秩父別町のあちこちに魅力があって、いろいろな思い出も注いできました。ですから、その町はたぶん東京などの大都市のようにそんなに賑やかではなくても、一族の帰属感が集まる場所なので、離れがたいのでしょう。

今の高崎さんご夫妻は、いつも笑顔で、何気ない日常の中に幸せを見つけるように楽しく生活しています。高崎さんご夫妻は人との付き合いが大好きで、ご近所ととても仲が良く、日常生活でも常にお互いを気にかけています。優しいご夫妻は、「隣の人とお互いに支えるのは当たり前なことでしょう！」とよく言いました。特に驚いたことは、冬にどんなに大雪が降っても、ご夫妻はわざわざ外に出て、会合に行くこともよくあるということです。そこから、地域の人と仲良く関係を結ぶのが本当に好きな方なのだということがわかります。

また、高崎さんは旅行に興味があります。積極的に日本の各地へ旅行するだけでなく、ベトナムや中国などへの海外旅行経験もあるのです。旅行をしながら、新しい知識や



視点が得られるからだと思います。高崎さんは時代に適応していこう、という考えが柔軟な人なのでしょう。

それ以外に、高崎さんは農家だけではなく、また老人クラブの会長を担当しています。ときどき農作業が一段落すると、老人クラブに顔を出します。何事にも積極的で、また同時に責任感もある、そのような印象を受けました。

とても元気に活動する高崎さんを見て、元気であることが一番幸せなことだということをお教わりしました。

●生きがい、それは農業

そんな素敵なライフスタイルを送っていらっしゃる高崎さん。農家としての普段のお姿にも興味があり、お話をお聞きしました。

秩父別で、お二人で農業を営まれている高崎さん。



〈インタビュー前に見せていただいたご自宅用の野菜畑〉

昔はほかの農家さんのお米を育てていましたが、高崎さんの入院や農協からのトマトジュースづくりの提案など、様々な理由でトマトの栽培も始めたと言います。今は自宅用に普通の野菜から“スティックブロッコリー”(茎を主に楽しむブロッコリー)や緑のナスなど珍しいものまで、多くの野菜を栽培していらっしゃいます。「野菜は買うものではなく、自給自足するもの」という高崎さん。都会で暮らす野菜欠乏の私たちにとっては、うらやましい限りの話です。(余談ですが、高崎さんの栽培されたズッキーニをお土産にいただきました。普段見るものより大きくてつやがあり、とても新鮮で野菜の味が濃くおいしかったです。ごちそうさまでした。)

高崎さんのご自宅にお邪魔させていただいたとき、トマトの脇芽摘みと、茎を縛る作業を手伝わせていただきました。蒸し暑いビニールハウスの中、ただひたすらトマトの脇芽



を摘んでゆく。茎を縛ってゆく。このような単純な作業を、毎回も繰り返しています。とても楽しかったのですが、一回やるだけで大変だった作業を、ご夫婦は毎週トマトをおいしくするために続けていらっしゃいます。やはり、トマトの栽培はとても手間がかかるそうです。それでも作業を続けていらっしゃる高崎さん。農作物に対する真摯な態度がとても素敵なお方なのです。



〈インタビュー前の脇目摘み〉

手間がかかるということは、農業全体に対しても言えるような気がします(私が農業未経験者だからかもしれないのですが…)。いろいろときついこともあると思うのですが、高崎さんはどうなのでしょう？

高崎さんは、仕事をする上での楽しみは、やはり“育てたものの成長”だとおっしゃいました。自分の育てたものがちゃんと成長して、きちんと出荷できること。秋は特に天候が変わりやすく、雷、台風のような天候の変化が結果に直結してしまう。だから大変な面も多いけれど、それを乗り越えた上での豊作はとてもうれしいそうです。その楽しみのためなら、大変な作業も楽しくこなせるのかもしれない——私はここに、高崎さんをはじめとする秩父別の方々の都会とは違った“心の豊かさ”を強く感じました。その楽しさに日々触れられている皆さんが、少しくらいやましく感じます。

ご高齢ながら農業を続けられている高崎さんですが、農業をやめようと思ったことはないそうです。むしろ、「仕事があることが明日の活力になっている」とおっしゃっていました。また、現在旦那さんのお年は80歳ですが、「来年もまだまだ仕事をしたい」「来年も続けるかなあ」などと笑って言われていました。



“やるべきこと、仕事があることで元気になれる。”
“人生そうやって生きていたいと思える。”

そう思えるほど高崎さんは強く農業に魅力を感じ、生きがいになっているように感じられました。

●あかずきんちゃんと高崎さん

また、高崎さん(奥さん)は自分で育てたトマトを秩父別名産のトマトジュース“あかずきんちゃん”に加工するお仕事もしていらっしゃいます。この“あかずきんちゃん”は、一般的に売られているトマトジュースとは違って、トマトと塩のみで作られています。そのため、トマト本来の優しい味がして、トマトジュース嫌いの私でもとてもおいしく飲める、素晴らしいトマトジュースでした。トマトの栽培時期に合わせて期間限定、またその時その時で風味が変わる、自然由来の体に優しいジュース。素敵なジュースづくりに参加されている奥さんに、仕事の中で嬉しかったことを聞いてみました。

去年の話ですが、実習で留学生が来た時、お礼に奥さんの写真入り“あかずきんちゃん”をもらったのだそうです。常温保存が可能なので、去年のジュースだけれど保存している、というものを見せていただきました。ジュースを持ちながらとてもうれしそうに笑っていらっしゃった奥さん。農業やそれに関連する仕事の魅力は、こうやってできる人と人との温かい関係もあるのだ、と強く感じました。

高崎さんご夫妻への取材を通して感じたこと。それは、秩父別の農業はおいしい野菜だけでなく、温かい心も育ててくれるということではないでしょうか。

● 編集後記

取材中も、終始仲が良い元気なご夫妻でした。病気だったときもあったから、「日常」の幸せについてよくわかって。他人と比べず、自分が幸せでいられることに心が動かされました。その優しい心と元気の源は、きっと農家という命を育てる職業に対する誇りと楽しみ、そこから得られる人間関係の温かさからきているのでしょう。

文責：吉田彩乃 / 王敬業